

# 私学の魂

文京学院大学女子中学校・高等学校

## 伝統と多様性、先見性が織りなす教育環境と 「自立と共生」の教育理念のもと 未来創造型の3コース制の導入によって 生徒の可能性を“夢の実現”につなぐ!

JR 山手線と地下鉄線「駒込駅」と「巣鴨駅」両駅から徒歩5分圏内の閑静な住宅地にある文京学院大学女子中学校・高等学校。2015（平成27）年から「グローバルスタディーズ」、「アドバンスサイエンス」、「スポーツサイエンス」という3つのコース制を導入し、数年の間に「伝統の女子教育」に加えて「新たな教育プログラム」を次々と導入し、自らの教育を進化させてきました。その一連の改革をリードしてきた中高一貫部校長の水上茂先生と広報部長の嶋田栄司先生に、今回はお話を伺いました。



中高一貫部校長の水上茂先生



広報部長の嶋田栄司先生

### DATA 1

#### 文京学院大学女子中学校・高等学校

- 沿革 1924（大正13）年 東京市本郷区追分町62番地（現在の文京区向丘）で島田依史子が「島田裁縫伝習所」を開く。生徒数15名。
- 1947（昭和22）年 新学制により文京学園女子中学校を開校。
- 1991（平成3）年 文京女子大学中学校・文京女子大学高等学校と校名変更。
- 2002（平成14）年 文京学院大学女子中学校・文京学院大学女子高等学校と校名変更。
- 2010（平成22）年 国際教育センター、および国際塾を設立。
- 2012（平成24）年 文部科学省よりSSH（スーパーサイエンスハイスクール）およびコアSSHの指定を受ける。
- 2014（平成26）年 創立90周年を迎える。
- 2015（平成27）年 3コース制を開始。文部科学省よりSGH（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイト校の指定を受ける。
- 2019（平成31）年 中学入試に3つの「思考力入試」と「IEE（インタラクティブ英語）入試」を導入。
- 2020（令和2）年 中学入試に「得意型文京方式入試」を導入。

校長 水上茂（中高一貫部校長）

所在地 〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3  
TEL：03-3946-5301  
<http://www.hs.bgu.ac.jp/>

交通 JR山手線「駒込駅」南口・「巣鴨駅」南口より徒歩5分。都営三田線「巣鴨駅」A1出口より徒歩5分。  
東京メトロ南北線「駒込駅」3番出口より徒歩5分。

## 文京区本駒込の閑静な住宅街に 女子が安心して中高6年間通える、 自然豊かで明るい教育環境がある

JR 山手線と地下鉄が交差する駒込駅と巣鴨駅の2駅から徒歩5分圏内の閑静な住宅地。六義園に隣接した文京学院大学女子中学校・高等学校のキャンパスは、通学にも便利で、なおかつ豊かな自然環境と優れた設備を整えた、女子が中高6年間通うための安心・安全な教育環境といえるでしょう。

同校を訪れるといつも感じられるのは、自然に囲まれたキャンパスの恵まれた校舎施設、明るい光の注ぐ教室のなかで過ごす在校生の屈託のない表情と、多様なタイプの生徒がそれぞれの居場所を得て、楽しく学校生活を送ることのできる穏やかな雰囲気です。

創立者・島田依史子が、いまから95年前に裁縫伝習所として生徒数15名で開校して以来、新時代を生きる女性を育てようとしてきた文京学院では、そのルーツでもある「運針」をはじめ、美しい文字を一生の宝物とするための「ペン習字」、明るく広々とした空間で行儀よく仲間と一緒に昼食をとる「食育（給食）」、同校で学ぶ帰国生や留学生の多くからも関心を寄せられる茶道・華道の「礼法」などの伝統教育がいまでも大切に受け継がれています。

「誠実・勤勉・仁愛」という、創立者・島田依史子が大切にしてきた3つの精神を校訓とし、「自立と共生」を教育理念に掲げてきた文京学院の教育について、中高一貫部校長の水上茂先生はこう語っています。

「たとえ時代がどのように移り変わっても、文京学院には変わらない指針が明確に存在しています。それが本校の教育理念『自立と共生』です。創立から95年もの間、大切に受け継がれてきた誇りと伝統と、変化し続ける時代と共に次々と生まれる新しい夢。そのふたつを大切に育み、これからも時に力強く、時にしなやかに活躍できる女性を育てていきたいと思っています」

### 時代の行く手を読みとる先見性と 「自立と共生」の教育理念のもとで 新たな教育プログラムやコース制を進化！

創立者・島田依史子が書き記した1冊の本、『私の歩んだ道』のなかには「私学は、まず教育理念で、常に明確かつ新鮮でなければなりません。そして時代に流されることなく、時代の行く手をいつも読みとったものであることが必要です」という一節がありました。建学にかけたその思いが、『自立と共生』（教育理念）となって、いまも同校には継承されています。



伝統の「食育（給食）」の時間は美しい所作を身につけることができる。

創立時から受け継がれてきた、女子教育の伝統と実績を大切にする一方で、島田依史子が伝えた「時代の行く手をいつも読みとったものであること」、つまり「先見性」をも使命に掲げる教育姿勢が、いま世界の教育に求められるものを同校の『自立と共生』の教育理念のもとで具現化して、新たな教育プログラムやコース制として進化させてきました。

「現在のコース制は2015年から本格導入しました。私が学年主任を務めた学年ではSPPなど一部のプログラムを先行実施したのですが、今年の春に大学を卒業して社会人1年生になった、この学年の卒業生たちが、さまざまな世界や業種でユニークな活躍を見せ始めています。空港のグランドスタッフになった生徒、ものづくりが大好きで工業大学を出てプロジェクターのレンズの設計・開発に関わっている生徒、IT系の営業職やプログラマーになった生徒、美術系の大学からデザイナーになった生徒…、文京学院大学を出て看護師になった生徒もいます。続く学年でも防衛大学校や、航空管制業務に就くことをめざして航空保安大学校に進学した卒業生もいます。必ずしも難関といわれる大学をめざすだけでなく、それぞれの選んだ目標に向けて、それに合った進路を実現し、就いた職業や就職先で、自分らしい活躍を見せ始めてくれていることが嬉しいですね。コース制の導入によって、自分の意思で、本校のコースを選んで入学してくる生徒が増えました」と水上先生はその手応えを語ります。

文京学院大学女子の6年間一貫教育では、将来のキャリアを意識した3種類のコース編成によって、グローバルなステージで活躍できる人材を育てます。ただし、中学では、まず各コースとも、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る「Foundation（ファンデーション）Stage」（中学1年次）がスタートラインです。

「本校の現在の中学2年～3年生のコース制は、クラスを分ける形ではありません。かつてはクラスを分

けたことがありましたが、それよりも同じクラスに、それぞれ違った目標や進路希望をもった友達がいる環境の方が、互いに認め合い、刺激し合ったりして教育効果も高まると判断して、現在の形にしています。そうすると、同じクラスの仲間に、国公立大学や医療系、国際系や科学系、あるいは美術系やスポーツ系の進路や職業をめざす生徒と一緒にいて、かえってクラスの雰囲気も明るくなり活気を増しています」と水上先生。

いま、教育の世界で必要とされる多様性（＝ダイバーシティ）が尊重される教育空間での学びが、文京学院では中学から体験できるということなのでしょう。

## 時代の要請と変化、生徒の進路に応える グローバル、サイエンス、スポーツの 3つのコース制を導入！

文京学院大学女子が導入しているコース制は、大きくは、「GLOBAL STUDIES（グローバルスタディーズ）」、「ADVANCED SCIENCE（アドバンスサイエンス）」、「SPORTS SCIENCE（スポーツサイエンス）」という3つのコースに分かれるものです。

ただし、先ほどの水上先生の説明のように、中学校ではあえてコース別にクラスを分けずに、最初のコース選択を経た中2と中3でも、それぞれのコースの生徒は同じクラスに所属し、ゼミ活動やラボ活動と呼ばれる時間に、それぞれのコースの授業や活動を行うというユニークな形をとっています。

中学1年次は“学習習慣を身に着ける”「Foundation（ファンデーション）Stage」とされ、その1年間を経て、次の中学2年次、3年次の2年間は、“得意分野を見つける”「Active Learning Stage（アクティブラーニングステージ）」と位置づけられています。

「すでに中1でも、『探究の基礎を学ぶ』ファンデーションプログラムとして、『自分を知る、身近な人を知る』ための『職業インタビュー』や『福祉体験』、『13歳の誕生日学』講演会などの『キャリア教育・探究活動』

が行われています。

続く中2では、『フィールド探究の実践』をするコース別研究として、『文化の多様性を知る』ために『日本とは違う国に生きる世界の子どもたち生活を学ぶ』授業や、『持続可能な世界について考える』、『古都における国際性を考える』などの研修旅行研究などが行われ、キャリア教育・探究活動をさらに深めていきます。

そして中3では、『探究成果のプレゼンテーション』をするコース別研究として、『幼稚園実習』、『卒業生職業講話』、『系統別説明会』や『企業見学会』など、進路について考えるさまざまな機会が用意され、『研修旅行・研究発表』も行われます」と水上先生。

こうして、このステージでのコース別研究とともに、学院全体のコース制プログラムにまたがる「SGHプログラム」、「科学探究プログラム」、「国際塾」、「スポーツキャリアプログラム」などでの多様な体験や授業を経て、高校進学段階で、それぞれの生徒はコースの再選択を行います。

中学から入学した中高一貫生にとっては、高校で選ぶコース制の、中1から中2に上がる時点での選択と、高校に進学する時点での再選択ができることが、中学の3年間で自分を見つめ、将来の進路を選んでいくうえでの時間的余裕や安心感につながります。

「なかには『うちの子に自分の進路をしっかりと選ぶことができるのだろうか？』と心配する保護者もいますが、意外とそうした心配は杞憂です」と嶋田先生。

そして高校に進学した4年次（高校1年次）からは、「グローバルスタディーズ（TクラスとAクラス）」、「アドバンスサイエンス（TクラスとAクラス）」、「スポーツサイエンス」の3コースに、クラス編成も分かれます。このTクラスは「シンキング（思考力）」、Aクラスは「アクティブラーニング」の頭文字をとった名称で、新たな大学入試にも対応できるよう学び方が工夫されたものになります。さらに高校2年からは、「グローバルスタディーズ」コースに「S（スーパーイングリッシュ）クラス」が加わります。



## 理科教育と国際教育の充実が評価され、 全国でもたった29校しかない、 「SSH」と「SGH」両方の指定校に！

文京学院大学女子中高は、2012（平成24）年に文部科学省よりSSH（スーパーサイエンスハイスクール）およびコアSSHの指定を受けました。最近では理系教育に力を入れている女子校が増えているなかでも、早くから最先端の理系&科学教育が実践されていることの証左でもあります。

「国際力と探究力を備えた研究者となるために」と謳われている「アドバンスサイエンス」コースの生徒たちのなかには、ゴボウとコンニャクが接触した部分が緑化する現象に着目して、自然な着色料によるグミを開発し、専門家からもその研究と発表を高く評価されたグループの生徒もいたそうです。

中学でも10月の校外学習で、中1は「都電の旅」で、駅近くの商店街がシャッター街化している理由を調べて対策案を考えたり、中2は日本の開国時の港であり現在も国際都市である横浜に出かけ、ペリー来航時の様子と現在の様子を比べて当時に想いを馳せたり、中3では鎌倉に出かけて、地形と当時の古都鎌倉の様子を思い浮かべて発展の歴史を調べたりという、フィールド探究やプレゼンテーションに取り組んでいます。

また、校外学習の集大成として行われる、中学3年の関西圏への研修旅行では、各班でのテーマ学習に基づくフィールドワークを現地で実施。理化学研究所のスーパーコンピュータ「京」の見学に行く班、本州～四国を結ぶ世界一の橋梁の構造を研究する班、鳴門の渦潮を実地見学し潮流を研究する班、阪神・淡路大震災でできた断層を見学に行く班など、様々なフィールド探究が行われたといえます。

「こうして実際に現地に出かけ、自分の目と五感で感じる体験を本校では何より大事にしています。多感で



アドバンスサイエンスコースの生徒による研究発表は専門家にも注目された！

ピュアな世代の生徒だからこそ、机の上の学習とは違った刺激を受けて、いっそう学習へのモチベーションを高めることができます。それをサポートする教員はなかなか大変で忙しくなりますが…」と水上先生。

こうした生徒の体験と、そこで得られた貴重な刺激、その後の生徒の成長のエピソードなどを、学校説明会では水上先生が、その温かくユーモラスな口調で伝えてくれます。その名調子から感じられる文京学院の教育のあり方を知って、同校のファンになる保護者も多いといえます。

## 生徒の成長と自信につながった、 英語の「多読」プログラム導入と、 任意の課外講座「国際塾」の展開

さらに文京学院大学女子は、2015年から2019年にかけて、文部科学省からSGH（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイト校の指定を受けてきました。先のSSHとSGHの両方の指定を受けているのは全国の高校のなかでたった29校。都立小石川中等教育学校や横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校と並んで、文京学院がそのひとつです。

「先のSSHの指定は、今年でいったん満期を迎えることとなりますが、このSGH指定はこの先にもつながります。そして、このSGHアソシエイト校指定を受けてきた時期と同時に本校で2015年度から実践してきた、英語の「多読」プログラムが軌道に乗ってきました。この「多読」では、わからない単語があっても、すぐに辞書は引かない（わからない単語は飛ばして読む）、本の内容がつまらなくなったら読むのをやめる、など、私たちの世代が受けてきた英語教育の常識とは違ったルールがあり、このスタイルが本校の生徒の英語力の向上に功を奏しています。

この「多読」がやがて『多書』にもつながり、生徒はかなり長文の穴埋め問題でも、前後の文脈からそこに入る単語を類推して、英文を読み進めることができるようになります。リスニング力もついてきて、現在の大学入試センター試験レベルならば、満点に近づく力がついていきます」と水上先生はいいます。

一方、30年以上も前から、他校に先駆けて国際教育と向き合ってきた文京学院では、伝統でもある多様性豊かな環境のもとで、異文化を懐深く受け入れる校風が醸成されています。

「本校の国際教育プログラムのひとつに、『国際塾』と呼んでいる、ゼミ形式の課外授業があります。毎月曜日から金曜日の放課後に、中1から高3までの生徒が、学年を越えて、自分のレベルに合った講座を任

## 国際塾 講座一覧

開講日 毎週月曜日～金曜日の放課後  
 受講対象 中1～高3

レベル	講座名	
中 学	Beginner 1 (注1中1)	英語5級 MasterModule
	Beginner 2 (注1中1)	英語4級 MasterModule 2
	Beginner 3 (注1中1)	英語3級 English Vocabulary Fun
	英語検定準 海外科協生	英語検準2級
	英語検定準 海外科協生	English Aplus
高 校	Pre-Intermediate (注1中2級)	英語3級 Communication Skills 英語検準2級
	Intermediate (注1中2級)	Writing & Debate Global Issues
高 校	Advanced (注1中2級)	TED Presentation 英語検準1級・TOEFL・TOEIC

2010（平成22）年から導入された  
 ゼミ形式の課外授業「国際塾」が生  
 徒の学力を高めるきっかけに！

なっています。

「世界で必要とされ、活躍できる人材」の育成を目標として、①英語によるプレゼンテーション、ディスカッションができる高いレベルへの到達、②国際教育や英語教育で高いレベルにある大学の入試に十分対応できる英語力の育成、③海外大学進学に必要な英語力の習得、という指導方針で行われるこの課外授業が、先の『多読』プログラムと合わせて、生徒の英語力やグローバルマインドを育てるうえで効果を発揮しています。

「この『国際塾』の受講は有償なのですが、年間の登録料が1万円のみですので、月あたりの受講料に換算すると800円程度になっています」と嶋田先生はいます。

「大学受験に対応した英語力はもちろん、継続的に受講することで、大学進学やその先の社会で求められる高度な英語力が確実に身につきます」と水上先生。

すでに約1年2ヶ月後に迫った「2020年度の大学入試改革」とその先、新たな学習指導要領の導入に伴って行われ、本格的に「大学入試が変わる」と予測される2024年度からの第2期大学入試改革。いまの小学校6年生が大学入試に挑むのは、その翌年の2025年度ですから、文京学院で培った英語力が、さらに存分に発揮されることになりそうです。

「本校の英語教育と国際教育のプログラムのもとで、この先の大学入試で求められる『CEFR基準の英語力』を身につけることが十分に可能です。ただし本校では、『英語は単なるコミュニケーションのための道具』と位置づけ、むしろ多様な体験や文化と触れ合うなかで本当のグローバルマインドを育てていきたいと考えてい

意で受講できます」と、広報部長の嶋田栄司先生。

「『英語で発信したい』、『将来、英語を使って仕事がしたい』という希望を持つ生徒が、各自の希望によって選択できる講座ですから、部活動などを続けながら自分のペースで取り組めるようになってい

ます」と水上先生は、さらに高みをめざします。

## 3つの思考力入試と「IEE（英語）」入試、ユニークな伝統の「文京方式」に加えて、さらに来春「得意型文京方式」入試も新設！

そして文京学院大学女子中学校では、伝統でもある多様性豊かな教育環境に、様々なバックボーンを持つ受験生（＝小学生）と出会い、迎え入れることができるよう、従来からの「4科目・2科目」入試に加え、早くから多様な入試を導入してきました。

この2～3年の首都圏中学入試で急速に増えてきた「得意科目選択型」入試導入校の先駆けでもあります。

現在では「文京方式」と呼ばれる「国・算2科+社・理・英（各2題）中から2題以上（～何題でも）を選択～解答し、上位2題の得点で判定」というユニークな形式が、広く受験生と保護者、塾から認知され、「受験生の得意な科目や長所を見てもらえる」入試として歓迎されています。

「本校の教育では、とにかく“褒める”ことを心がけています。地味なことでも何でもよいので、生徒一人ひとりががんばったことを見つけて褒めてあげる。どんな子どもでも、自分をきちんと見てくれる大人がいれば、まっ直ぐに伸びるといいますよね。ですから私は保護者の皆さんにも『子どもを褒める達人になれますか?』と常々お願ひしています。私自身も校長室を出て校内のあちこちを歩いて、生徒の様子を見ては“褒める”ことを探しています」と水上先生。

先の「得意科目選択型」入試の先駆けでもある「文京方式」を、すでに20年前から導入（当時は国語ともう1科）していたことも、この“褒めて伸ばす（＝長所を評価する）”教育姿勢の表れなのでしょう。



文京学院中学校の入試は、受験生の得意な科目や長所を評価する視点で行われる！

## 探究活動を通して育てる力

自ら発見した課題について考え、仲間と意見交換しながら知識を深め、自分の考えを表現していく。探究型学習のサイクルのなかで、以下の力を養成します。



また、中学の一般入試に英語を導入したのも、おそらくは都内の私立中では最も早かったのではないのでしょうか。その英語入試は、先の「文京方式」入試の選択科目と、新たに2018年から導入した「IEE（インタラクティブ英語）」入試へと進化しています。

「IEE入試」は、英検3級程度のレベルの、ネイティブスピーカーと受験生複数名による英語活動（50分・100点）によるもので、この英語入試で本校に入学してきたなかには、すでに英検2級に合格している生徒も数名います。そうした高い英語力を持つ生徒には、英語の取り出し授業も行っています」と嶋田先生。

さらに来春2020年入試からは、先の「文京方式」をさらに発展させた、「得意型文京方式」という、先の「文京方式（2科+選択）」か、もしくは「国・算2科」で受験し、いずれか得点の高い教科を2倍にして判定（=実質1科で判定）するという、ユニークな選択型入試を新たに導入します。

この2019年から来春2020年入試にかけて「算数1科」や「国語1科」入試の増加が目立つなかで、あえて「2科を受験させ判定は実質1科」という形式での入試を新設する意図はどこにあるのでしょうか。

「本校では伝統的に“答案をじっくり見る”採点姿勢を大切にしてきました。ですから受験生が非常に多かった時代にも決してマークシート方式にはしませんでしたし、受験生にも、算数の解答用紙には途中式を必ず書くことと、途中の式や考えのメモを「消してはダメだよ」とアドバイスしてきました。答案をよく見れば、

8割くらいはできているけど、あと少し…、という受験生の本当の力も感じ取れます。ですから、採点はどちらか高得点の1科を倍にして合否判定するとしても、受験生には国・算2科に取り組んで、それぞれの努力の結果の答案を見せてほしいのです。正答まではあとほんの少しだった受験生のなかに、後に自分の長所を伸ばして大きく成長する生徒がいることも期待しています」と水上先生。

そのほかにも、同校の3つのコースの学びを反映した、「グローバル思考力入試」、「サイエンス思考力入試」、「スポーツサイエンス思考力入試」という3種類の「思考力入試」が2019年から導入されています。

この3～4年の間に、私立中学入試の多様化が急速に進んでいる傾向は、この先に大きく変わる大学入試のあり方を先取りしたものです。しかし、「正解が一つに定まらない問い（オープンエンドの問い）」を課す本格的な「思考力入試」を導入している私立中では、まだ少数派です。文京学院大学女子中が、その「思考力入試」を3種類も導入していることは、同校の先進的な教育姿勢を反映したものといえるでしょう。

また、文京学院は、2018年から「ユネスコスクール」の認定を受け、従来から取り組んできた「持続可能な開発のための教育（ESD）」をより深く発展させた形として、国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」に関係する探究活動に取り組んでいます。

「さらに来年2020年度の中高入学者からは、生徒1人1台のiPadを導入。すでにICT教材『すらら』を活用した学習には校内のPC教室でも取り組んでいますが、それをもっと発展させていくことができそうです」と、水上先生と嶋田先生は声を揃えます。

創立から95周年を迎えた同校の生徒たちが、さらに大きな成長を見せてくれることが楽しみです。



水上校長は学校説明会でも、生徒の成長のエピソードを温かな口調で語ってくれる！